

市政日誌

政令一六

七五

リ5
5338
I



リ 5
5338
1
1-2
若

日誌小引



今般

大政御一新江戸へ 鎮臺府御差置町奉行所の

儀市政裁判所と御唱替相成候得者追々

御政令本局より里市民へ御布告ある一然る

ふ市民未々乃者ハ營業も取紛は候哉從來布

告の嚴令え其時限りの様相心得免角令行禁止

乃治効難相立遂ふ不知不識法我把一候族も間

可有之憫然の次第本局吾輩ハ吏實ふ其責も任

一号



せざるを得ば猶此後元舊不依り諸件令禁一通
里に觸を示し候而已ふてと宿弊何分一洗致し
かたのるは——是吾輩の吏最苦慮痛息をる所な
り幸ふ近來新聞紙の類専ら都鄙を行をき児童
志率え喜而通讀致い風習ふ相成既官板日誌
頒行遠境僻地ふ至るまで實事確報を傳聞をる
事代得庶民得りふ疑危驚擾不致様との
御趣意も貫徹し實に愉快の盛事あり抑本局布
告の件くと府下一般の目的勸懲賞罰乃大綱

領なるま市市民妻子奴婢乃未迄平生服膺為致
置のを教化の大本相立ち自ら過誤犯罪の輩無き
ふ至る属し今や吾輩同志相謀し御政治も大
關係乃新令を截録し官評代経て剗剗と撰
け普く天下の頒行す命けて市政日誌と曰ふ凡
民持ふ威令恩教を仰き奉り是編成視て一部
乃律書と心得捧讀拜誦せん吾輩の鄙誠聊亦
空か

慶應四年夏五月

一

凡例

一 鎮臺府ヨリ 御布告ノ令若クハ禁 御沙汰向等
 一 ヲ第一ニ舉ゲ次ニ孝行奇特者ノ御褒賞或ハ死刑
 以下ノ御仕置等事狀差常例ニ異ナリテ其條理兼
 テ心得置ヘキ者ヲ載ス
 一 御布告ノ令 御沙汰向ハ原文ヲ舉ゲ刑賞ノ諸件
 文長キハ摘録シテ簡潔ニ從フ
 一 逸事奇聞事必ス本局ニ關カラサルモ極メテ確實
 明白ニシテ政教ニ裨益アルモノハ間一二ヲ録入
 スベシ

市政日誌第一號

慶應四年戊辰五月十九日

○徳川龜之助若年寄より町奉行へ相渡り

書付之字

府下取締之儀清委任法 作付置ひ交令及當分江
 戸鑑基法及置ひ付寺社町筋定ニ存行所英之儀
 記録取明廿日中悉く引渡り申上事
 但存行ノ儀止休以下役人ニ當ル是迄之函ヲ出
 初法ニ作おひ事

五月十九日

右ノ通

大総督府より法 作出の間法記録類本引後一方之
後早々一筆取付ハ在支配向ノハ是迄ノ通ヲお勤
以換之結中後以事

○五月廿日

右書付書後一以二付翌廿日町奉行所及之法記録等
外取調引渡手續出来之变故際有之相延之

○五月廿日

同日町奉行石川河内守北佐久間備中守南ハ役儀法是
免大目付ニお取リ残ノ用向取扱陸川龜ノ地より法

中付奉行所法用取扱園口長補能頭上田作ニ並同
方取口運之助ニ役儀差免ニお取リ

○五月廿一日

徳意府制事役以使書本町奉行所一奉ノ河内守後五
帝意外役之立合役所并、徳記録引渡お海調役急
事与力以下並ニ陸川藩方ノ儀ニて是迄ノ通ヲ初後
之儀判事より口達河内守徳意守ハ役不引拂

○五月廿二日法後法書付写

今般江戸徳意法差並ニ付寺社町勘定之ニ在法
お廢別法之通リ法 作出ハ急務ニ是迄ノ通リ可お

心得以事

但寺社存所ハ寺社裁判所存所ハ市政裁判所
判事劫定存所ハ民政裁判所と相唱へて事
右之通り也 作出以間不渡換可也

○別紙

鎮基

有栖川大総督宮

補

橋本少將

大原前侍從

西四辻大夫

判事

新田三郎

小笠原唯八

江藤新平

土方大一郎

同加勢

北島千右郎

西尾遠江介

横川源藏

○廿二日 徳川 恙年 寄 坂部 筑前 寺より 大目付
白戸石助へ 渡す書付字

元所存の紙と力同公成分の後當分の内進退取扱は
換可紙紙の要細之候石川河内守佐久間徳中御下
候事

○廿二日 南裁判所よりあるて 西紺屋町 名之坂
寺より 中渡

紙と書付換り
名之共

今般江戸徳川幕と身置ゆ又付町存候と此所慶候一ども
市政裁判所へお請ひ候との候と是迄の与力同公成
支配向當分の内徳川家臣に候又て事勢取扱中者
候 御出の与有候紙紙と書外迄渡さる換可中通
候事

但是紙の候別紙雛形に通し 相改め候間 寺より
公傳候

○別紙雛形

一
六

南裁判所
田舎紙

何所 惟店

惟

右にその明裁の 何時所 役人 若 添
可 推 出 こと の 也

第 改

南裁判所
何月 日

押切

石 紙

何所 惟店

惟

右にその明裁の 何時 石 添 可
可 推 出 こと の 也

第 改

辰
何月 日
小裁判所

押切

右所 役人

市政南裁判所

押切

御印鑑



縦 一寸四分余
横 九分八厘

市政北裁判所

押切

御印鑑



縦 一寸五分五厘
横 八分五厘

市政日誌第二號

慶應四年戊辰五月廿二日

○五月廿二日

南裁判所へ大系前付後取年刻より入るるありは供
連続係事等より表門外より力同心出物中より力ハ
内倉よりあつて降掲法 作付囚獄不出帯刀町年寄地
割汲水同投法 作付此事

○五月廿三日

小裁判所へ大系取物出物て前日と同ト

○五月廿三日裁判所判事と以法 作出此書付写
町守新継与力同心と米自今継奉府附と法 呂出

御守杖持米未是と可通り此下並に石川河内守に候へば
此沙汰小事

五月廿三日

同文云

右之通

大総督府より此仰出石川河内守力同公共

御守杖持米未是

右末文ハ種川若年寄河津伊豆守より大目付白戸
石助佐久右衛門左衛門石川河内守一に候へば力一に違は

此外候漢違有之

○五月廿七日南裁判部よりおのそ判事出方大一印

と以て此仰出石川河内守に候へば

因縁 石出帯刀

右之徳意府附より此仰付深言亦是迄之通り此
下並に如前之公名お初め御能支候へば是又同
候此仰付石川河内守に候へば

右之書付之種川大目付石川河内守を以て徳意
府より此仰出石川河内守に候へば

○廿七日

江戸

町年寄

樽 俊之助

森多村又四郎

銀 市右衛門

岡

地割役

町年寄並新方

樽 三右衛門

右之邊幕府附之法 作付技持米町屋發本是迄之
通之計下並新方 清水政之打掃當更勉勵市政之付

見込こころ 報木かき 公こう 三さん 傳でん 三さん 五ご 山さん

○同日

本不道役

家城普重

清水公直

右之邊幕府附之法 作付所屋發本是迄之並新方

之發之是迄之通之計下並新方 清水政之打掃當更勉勵

可致事

○同日

源人

山田淺之助

右之邊幕府附之法 作付新方之發之是迄之通之

可右公坊以

○五月廿八日

南裁判所へ南北に判事委合惣所と名目見之有
べく以事

○同日所編

今般江戸徳意法若墨所奉行委ハ市政裁判所と
警是迄く復く之儀に徳意府附之法 作出却之
之通り事勢取扱以石所之徳意未提来所法之通
相心坊之訴出且若急が以儀之旁く所人徳意公事
訴訟未之来月形の上より之来以石急急保之訴出也

但月為之儀も南水まで是迄く通り隔月とお心坊
来月も小裁判所とお心坊得以

辰ノ五月

○同日中渡

町
名主共

今般江戸徳意府 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府
裁判所 唱習役 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府
之通り 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府
迄く通り お心坊 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府
勿論市民 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府 徳意府

其方後十一歳に切より主人の一年季を公にお仕
主人中付を大切とお守り求むる節を公に掛けお初孫
主ひとろり近來主人の不仕合おつて此連年一物
便宜とて利潤もろく退く身止むに不始意お
成り上主人の命多病を治せ世も持て後生来不
中厄多し付何せん難行屋終又困窮はおよび連水
土花とも賣渡し裏家へ借宅いししし程の地
身ハ不自由をさし不厭お持の衣敷返貸入致し
主人差支を補ひ右乃奥木性還て寂あひ致し一柳
の賣値を以て主家の財よりししし右柳零落の主人

一附添病言く看病もふあ然又大切といししし
年は近実辨又忠勤致し一孫五小暇極きとのよし
奇持し後し付お裏受を目之指費文とせ世を
○同形

懐素町寺丁目
正徳地傍
秋野後役者
岩井宗若事

宗若

其方後幼年し切より主人の一年季を公にお仕
主人中付を大切とお守り求むる節を公に掛けお初孫
主ひとろり近來主人の不仕合おつて此連年一物
便宜とて利潤もろく退く身止むに不始意お
成り上主人の命多病を治せ世も持て後生来不
中厄多し付何せん難行屋終又困窮はおよび連水
土花とも賣渡し裏家へ借宅いししし程の地
身ハ不自由をさし不厭お持の衣敷返貸入致し
主人差支を補ひ右乃奥木性還て寂あひ致し一柳
の賣値を以て主家の財よりししし右柳零落の主人

附一不孝又お前いとて子津瀬うと致一亡祖又
亡又忌日よハおとつるく画像を撮ケ追若お賞平
日と母の心又叶い換心を用ひ孝養を呈一
母よさ一魚の叔母をも大切又養ひ上下の聖徳を
歌一以故百倍くもの代も何れも年未納つてき日
上のもの代よ安をつてさせ常々孝心のおもむきお
史一贈きとのみをまどくの俵又付養負と一てを
目之指費文とらせをせ

○同改

下桂町
左之末末

新 巻

方後支親とも老年よあまびい又付病年の節一を
心を用ひ厚く看病つて一平日侍意先より賢い更
以食物木もそ身ハふ食持保り支親一有答困窮の中
ふて又母の心を慰し換心掛ケ柳ヤ付と不れ背孝
養を呈一以故うらきとの又ハ奇特の俵又付養負
と一てを目三指費文とらせをせ

○同改

京橋お台町

家主

建具屋

方俊町用向実辨又お和職業より生替りし一母一
孝養を以て一以候様事りの又ハ奇抄の役ニ付養員
と一して今日三拾貫文とせせと

○

右之者大南裁判所へ呼出し申後す

同日申後右之外口名及第三號ニ擧ぐべし

市政日誌第三號

慶應四年戊辰六月朔日

○六月朔日南裁判所よりおみく申後

麻布様田町
辰之末店

銀五 節

方俊足袋職りし一尾立主人より初申母俊老
妻よりおよびりし付主取一申立通ひ初りし一右給
金と以て其日をお賞み賜りて年々来母一孝養を
以て候様事りの又ハ奇抄の役ニ付養員と
して今日三拾貫文とせせと

○同日

三号

下谷三ノ橋町

忠々

予方倣又秩五年「眼病お煩ひ」付薬用も尚も勿
補神仏一祈願し「厚着病」し「い」ども終
盲目とお取ひを深くお歎き又の食物も勿備何
よよふ次心は叶ひぬ根心を用ひ老年盲目の又と
慰め祈願するく年来孝養を「い」後うろさ老
みを奇物の倣し付あうびと「い」て今日之指貫文と
らせまは

○同

元飯田町

源如左
壺作威

安方郎

予方倣主人「勅中」自分仕事「い」て其「い」文「い」便法
も祈「い」ても有祝「い」お送「い」る人方首尾よく「い」取祝「い」え
へ立居り「い」る日「い」深文「い」を職業お精「い」り「い」る
親へ孝養を「い」る「い」「い」後「い」れ「い」る「い」奇「い」持「い」の倣「い」又
付指貫文「い」て鳥目「い」之指貫文「い」取「い」せ「い」ら「い」る

同

源川船越町

三

陸物店

清三郎書

はて 函

手方倭吏清三郎、中風お發熱身ふ叶とお放ひを添
 くお歎目く不一通、苦心着病骨を怠らば、賃仕事し
 有る利潤を以て、今日を嘗み清三郎、病疴夜平夜酒
 を奴之身とて、愛依おくゆへども、少くも送るゆへ
 個へ書し、吏の心を慰め、聊の留合ふ、町内徳吉の
 神明宮へ、糸指病平愈を祈念し、一、急急、貞節と
 尋し、い暇、將きとのみ、あそぶとく、の候へ付、養員とし
 て、手目三指、費文とく、せせとて

右南裁判不へ、呼出し、中後とお放し、

○六月朔日北裁判不とお放し、中後

を三町目

文をら、借

吉を、海

手方倭吏清三郎、法色を、並に付居所、兼て平日出入り、し
 以、能、浪の、もの、す、金、を、取、又、金、之、分、づ、於、合、金、五
 指、何、余、施、し、身、方、い、暇、奇、お、の、候、へ、付、養、員、と、し
 て、銀、三、枚、と、く、せ、せ、と、て

辰六月初日

○六月朔日南裁判不とお放し、中後

江戸地割設

町年寄並筋方

榎三左門

殿中^{えちう}は出入町人

清用^{きよもち}向^{むか}名^な錦^{にしん}江^え

伴付^{ばんづき}以^{もつ}百^{ひゃく}筋^{しん}方^{かた}

し倭^{やまと}もその箱^{はこ}笥^{かき}圖^ずを^を更^{さら}入^い念^{ねん}二^にお^お初^{はつ}

辰六月

○同日中夜

馬^{うま}紺^{こん}谷^や町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

坂^{さか}形^{かた}六^{むつ}右^{みぎ}心^{こころ}

榎^{えん}物^{もの}町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

星^{ほし}野^の又^{また}右^{みぎ}心^{こころ}

坂^{さか}本^{ほん}町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

多^た田^た内^{うち}新^{しん}助^{すけ}

平^{へい}松^{まつ}町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

綿^{わた}右^{みぎ}心^{こころ}

喜^き物^{もの}町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

少^{すく}右^{みぎ}心^{こころ}

呉^ご坂^{さか}町^{ちやう}名^な主^{ぬし}

三^{さん}右^{みぎ}心^{こころ}

殿中^{えちう}は出入町人

清用^{きよもち}向^{むか}名^な錦^{にしん}江^え

伴付^{ばんづき}以^{もつ}百^{ひゃく}筋^{しん}方^{かた}

初^{はつ}方^{かた}の^の倭^{やまと}も^も千^ち箱^{はこ}笥^{かき}圖^ずを^を更^{さら}入^い念^{ねん}二^にお^お初^{はつ}

通^{とほ}寺^{てら}寺^{てら}目^め新^{しん}道^{みち}

源流并地借

泰 苑

殿中兼侍用達^ご 作付以石筋^{いし}の^ご俵^{はたけ}と^ごの^ご箱^{はこ}

足^{あし}名^な更^{さら}の^ご云^い字^じ末^{すえ}物^{もの}

南草屋町

赤井

三谷三九年

後河町

後四年地借八年云々

赤井地借二付

赤井地借人

其三年

下谷同朋町

赤井地借利云々

尾名地借二付

赤井地借人

赤井地借人

通儀町

赤井地借地借云々

赤井地借二付

赤井地借人

赤井地借

通寺町目

赤井地借云々

赤井地借二付

赤井地借人

赤井地借

芝三嶋町
赤持

くま後見

市之街

通寺町目

久多原地信蔵之末

紀原屋宅二付

店形人

半七

通部町目

赤持

土前之街

本町整町

市之街地信

長吉

佐之末町

伴助地信

長四郎

新和泉町南側

又之末之店

赤四郎

通儀公館町

海之印地信

長右衛門

小綱町寺目

中之末地信

長次郎

山下町
赤井孝右衛門
兼房町住宅
住人

新之橋

八官町
赤井

傳次郎

有傳次郎
市之系地信定氏
初年付後見

文助

殿中御用達 係付に召給ふの役多その初
國交の急了初

辰六月三日
○六月三日於南裁判不中後

組々世話掛り
名主共

市中控物控ひりの又ハ盜賊ハハ跡控物有之係出
以昂兵器之介を市門く控又通ひ不お感以百兵
番持事係出以昂を千度前以裁判不一たとけけ
市門通ひ不控お後之是百右之取て市門く一相

三
乃不持糸係出以換て被い

右と通り町中不渡換可中を事

辰六月

市政日誌第四號

慶應四年戊辰六月五日

○六月三日南裁判所よりおろく西野屋外事一

取以湫の旨中後

取以湫の旨中後

決定南野屋之紐書紐は事熱代湫兼契取との事動七
地借率則中而古生町四丁目庄地借率多屋中上
今般當百湫壹枚と付其縁湫は枚文之湫六枚洞小湫
八枚と換強よて由歩増は 係出以右右湫お場立方
の倭先般身伺いとらる於 由白測は 係後以倭先
手後世の箱よて法者人その外さ一つ之旁し換正

浅茅抄巻三の末

幼七地借

幸

助

本所お生町

庭三郎地借

幸 之 儀

以書付法請事申上候

去月廿七日後お場立りの儀を形宣候ところ所の
通り二筋又お場立候所候に候に 仰候事畏候儀に依り申上候
事申上候如仰々如件

慶應四年

六月二日

浅茅抄巻三の末

幼七地借

幸

助

本所お生町

庭三郎地借

幸 之 儀

代 三 吉

所裁判所様

○六月二日南裁判所よりおいて申上候

下谷通所

利米店 平三郎後家

お生町 あり物後世

やまき事女

いよ

其方後生賢業和^てて養父母の中付と御不^お有喜
 又平之生後^病字^をてお外^の付^種と業^用も^ありて
 一^いと^も不^お居^病死^りて一^いと^も付^認と^お吊^主の
 来^も自^分と^あり^不買^出一^いと^も再^成あ^りの^百合^も
 賢^徳も^お後^一一^いと^も業^お營^不自^中と^あり^根取^納ひ^喜毎
 孝^事を^てて一^いと^も怪^さ考^もも^奇特^の後^と付^存養^員
 等^目之^指責^又と^て世^世と

○回乃

佃島徳七店
妙嘉店

やま
く

其方後生公^前中^給令^ハい^とも^りと^も身^とつ^けた^後
 お送^り退^く妙^意後^及老^妻の^付主^人方^のと^ま世^世
 う^け妙^意も^えよ^つと^もい^とも^りと^も厚^く抱^擁
 女^の子^徳も^てき^目と^お堂^之因^窮の^中母^好い^おも
 個^へ給^給孝^養を^てて一^いと^も後^種の^のあ^り奇^特の^後
 と^付あ^りび^と一^いと^も自^之指^責又^とて^世世^と

○回乃

南信了所三丁目

又吉店 徳後世

才治年一伴

豊吉

其方後初年の初より茶如きて母親の申付とあるを
うた又病死後厚か多徳を守るの折柄赤業向一
際出精液一年来母へ孝養をす一以後時を老
より奇持の倣ふ付養員とてを目三指貫文とて
せまると

○同形

南枝所

三波舟一徳
孝業長世

心 助

其方後初年より追々及老年一妹父母より倣ふ
ありお外此節も百仕末又不但自らつる添着感
一

赤肉百仕も多く相適又お養い処進々時并に連れ進
以後世帯のところが身ハ麻扱麻菜とお刺貫まとお
守両親平いあり調子百仕も也憐と加一万事
心を配り孝養をす一以後時を老より奇持の倣ふ
付養員とてを目三指貫文とてせまると

○同形

下谷茅町終日

幸吉長世

八右丞

其方後茶和の生質より善又母の申付と不肖者母
つ編後三ヶ年以前より病疴より牙齦不叶い付

倉庫ホの世話〜道ごら喜又市印御も多
お成務も片〜お柳意家業出精波〜老喜を
〜お辰勝さ老よハ家持の義よ付あ〜
多目二十老又とと世老

○同日

牛込肴町

清助辰芳之末娘

世

同件

新橋

左方方後又芳之末三ヶ年以前より中風にて歩行
不叶又付家業向一途よお辰平日賃志強約とあ

人オ又ハ老喜をつ〜お辰うらき老よハ家持の義
お付老喜と〜と多目三換費又つ〜とと世老
右ハ老喜南裁判不ハ呼出〜中後す

○六月四日南裁判不ハあ〜中後

世
世話振り

名主共

先般徳川お恭順の布告有〜お辰又付町人どもの内
恭順の及を〜お辰閉店法〜恐謹存在ハものも有
〜お辰又お辰〜一回お辰の事〜お辰今般寛大の御
を以て徳川お城地録言あ〜お辰 係出江戸 徳喜

王政の一歩の政令進み給へば 俵出以上を
 懐く存立し不及致し用店が業管に換り致むも民
 情にありて不安の候も有し用店致し難き事なれば
 無忌憚りて之方々方々より町人共々申上り
 辰六月

市政日誌第五號

慶應四年戊辰六月四日

六月四日南裁判和ふおみく申渡

町々

地主町人共

一 近來町々自身為屋法方嚴重の中後未有之小変を以
 方を進めお馳し此の致しゆれども町入用を念ふにお裁
 決主共難儀致し主之當節に普請修復ホの名目
 にて為屋メ切立分も有し故にお安お常不致候し付
 為分の内為屋法方一般に若免の留為屋を前々夏向
 の通お公將メ主に換りて進め場不致を辨ホ申

付外

一 是迄納束の公役限以來お納外又不及也

一 町令取積束の七分積令の後も當分の内不及お納
お申右を窮民救極の良法も有之は万進して仕法整
の上及沙汰也

一 徳濟奉教を管易と之と致し一 各益の手取お省き可
是は万以來濟奉有之は亦も亦納ハハ人紐寺人云
添了申地借店借も亦之寺人附添了申外町役人の
附事ニハリ寺人にて可成也
但吟味取も同様ニ心得名之是添了申也

一 町火消入用の倣も了成支お城各益の入費お城申
爰地共管と吟味し一 是迄仕来より拍實倣也

一 又心得各益の倣も一切お止了申也

一 町本戸の倣も類焼後不取建場而も有之又本戸
有之は一 其地亦も有之取掃も亦之是申中有名云
實の倣も付當分の内一切切未の刻限お廢し一 以
石損外は往來添了お成外亦も取掃ハ申中本戸書屋
亦も地を其手取身取掃ハ書人お城申也
一 是迄の倣も多人教不及控之並右換書役亦も亦之
上之給台お城又寺人教可成支お城ハ換了致也

の定法も毀壞法——場末衰微の町屋安ハ公役限の法
 立ぐさる向もあそく^{コホチヤレ}子来^{モギ}の処今般 大改由一新^{コホチヤレ}付^{モギ}
 の疑義は乃 救度との 法執意^{モギ}して右公役限の法
 全く廢止^{モギ} 作出^{モギ}の事^{モギ}なり

同の事申す所今和七分積金^{ツキ}と申す寛政之五年所法改
 正の節^{モギ}都^{モギ}所^{モギ}の方^{モギ}の法^{モギ}得^{モギ}法^{モギ}改^{モギ}て外^{モギ}所^{モギ}入^{モギ}相^{モギ}初^{モギ}般^{モギ}件^{モギ}
 と省^{モギ}略^{モギ}の^{モギ}交^{モギ}入^{モギ}相^{モギ}換^{モギ}外^{モギ}又^{モギ}お^{モギ}減^{モギ}地^{モギ}之^{モギ}歳^{モギ}入^{モギ}多^{モギ}分^{モギ}お^{モギ}倍^{モギ}比^{モギ}付^{モギ}
 右歳入の内七分^{モギ}と申す所今和一分積金^{ツキ}三分と地^{モギ}主^{モギ}子^{モギ}取^{モギ}と
 お成^{モギ}右^{モギ}の^{モギ}積^{モギ}金^{モギ}と申す救^{モギ}買^{モギ}入^{モギ}圍^{モギ}ひ^{モギ}至^{モギ}或^{モギ}と^{モギ}貸^{モギ}付^{モギ}と^{モギ}し^{モギ}て^{モギ}
 大火^{モギ}震^{モギ}災^{モギ}飢^{モギ}饉^{モギ}流^{モギ}疫^{モギ}又^{モギ}と^{モギ}赤^{モギ}食^{モギ}と^{モギ}日^{モギ}暮^{モギ}の^{モギ}と^{モギ}の^{モギ}稼^{モギ}人^{モギ}未^{モギ}病^{モギ}

兼^{モギ}て^{モギ}善^{モギ}方^{モギ}又^{モギ}是^{モギ}交^{モギ}の^{モギ}と^{モギ}の^{モギ}毎^{モギ}歳^{モギ}多^{モギ}分^{モギ}の^{モギ}末^{モギ}後^{モギ}是^{モギ}を^{モギ}實^{モギ}民^{モギ}
 救^{モギ}極^{モギ}の^{モギ}良^{モギ}法^{モギ}も^{モギ}有^{モギ}る^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}交^{モギ}憲^{モギ}改^{モギ}以^{モギ}後^{モギ}新^{モギ}用^{モギ}法^{モギ}——^{モギ}の^{モギ}町^{モギ}屋^{モギ}安^{モギ}
 近年^{モギ}お^{モギ}増^{モギ}の^{モギ}向^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}所^{モギ}今^{モギ}和^{モギ}記^{モギ}立^{モギ}換^{モギ}と^{モギ}て^{モギ}積^{モギ}金^{モギ}不^{モギ}足^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}お^{モギ}互^{モギ}
 比^{モギ}例^{モギ}過^{モギ}不^{モギ}及^{モギ}お^{モギ}双^{モギ}居^{モギ}の^{モギ}般^{モギ}今^{モギ}般^{モギ}右^{モギ}七^{モギ}分^{モギ}積^{モギ}金^{モギ}納^{モギ}方^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}合^{モギ}
 法^{モギ}大^{モギ}改^{モギ}由^{モギ}一^{モギ}新^{モギ}の^{モギ}お^{モギ}摺^{モギ}別^{モギ}又^{モギ}一^{モギ}大^{モギ}良^{モギ}法^{モギ}を^{モギ}立^{モギ}上^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}ら^{モギ}民^{モギ}
 を^{モギ}般^{モギ}の^{モギ}法^{モギ}和^{モギ}至^{モギ}不^{モギ}有^{モギ}る^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}以^{モギ}百^{モギ}十^{モギ}者^{モギ}お^{モギ}公^{モギ}好^{モギ}厚^{モギ}く^{モギ} 法^{モギ}執^{モギ}意^{モギ}
 成^{モギ}體^{モギ}認^{モギ}可^{モギ}奉^{モギ}事^{モギ}なり



一 慶應二年^{モギ}分^{モギ}年^{モギ}を^{モギ}分^{モギ}代^{モギ}産^{モギ}質^{モギ}藏^{モギ}と^{モギ}申す^{モギ}又^{モギ}言^{モギ}
 一 金^{モギ}九^{モギ}拾^{モギ}万^{モギ}四^{モギ}千^{モギ}三^{モギ}百^{モギ}六^{モギ}拾^{モギ}七^{モギ}兩^{モギ}三^{モギ}分^{モギ}ト

銀控之金号分八厘六毛号系

但此代之分

全七拾五万九千八百廿拾兩三分

銀控之金号分五厘四毛

内

同年分町入用入号

全拾九万九千八百八拾五兩二分

銀控之金号分六厘五毛

同公役并年貢其外法及限

全五万六千三百三拾六兩二分

銀控之金号分八厘五毛

三拾九

國没添料地方入用入割
右孰是也公役之處(金号分)

同七号換金

全八万九千四百四拾三兩二分

銀控之金号分四厘八毛七毛

同名之收料 亦之給分

全九万九千八百八拾八兩

銀控之金号分五厘五毛

同町火消入用

全四万六千六百九拾五兩二分

銀控之金号分四厘三毛四毛

同上納地兼受買地上納金

金八千七百九拾七兩二分

銀二千八百九拾九匁

同借字の利息

金甲子八百拾陸六兩

銀拾二匁五分四厘四毫

同地之住居兼納銀々々代代之換

金拾陸七千九百拾五匁三分

銀七匁九分四厘七毫六絲

小

金六拾九千九百八拾六兩二分

銀四匁三分六厘二毫

同納地之利息

金拾万四千百九拾五兩二分

銀拾二匁五分四厘二毫七絲

町入用同納地代金是地之換

金壹万八千九百九拾五匁二分

銀拾金甲子三厘九毫八絲

外之上六歳代

金拾六万甲子六百四拾七兩

銀壹千九百七厘六毫七絲

○

○六月四日於南裁判所申渡

札付

巡遊のともへ海出屋書事

辰又月晦日

市政日誌第六號

慶應四年戊辰六月五日

○六月五日町編字

近來新聞紙類種々の名目にて陸續發行致し頗る
成利と貪り大に人心を狂惑動搖せし先は余不埒の
事なりといふ事官件等々各々一切禁止し是迄取
可申旨 是沙汰し事

六月

右に通知 作出の石板本英指漏の事は去上あ致し
付來り十日迄のらび所役人等方へ取揃市政小裁
判所へ送出し申着候し 是外との有るはあしき

三好曲事との也

○六月六日市裁判不コおろく申後

難波町裏河岸

市立の末左

鼻緒織

三方俊栄和の生質にて職業本精り〜〜〜日と工部

より紀食事扱未絞〜右石合コと母の衣類を洗

濯絞〜手身と兼扱と忌〜母奴小と洞乃結板

分と母の例と不離扱さ〜未絞〜考書と〜

三好貴文と〜世ま〜

○同日

横山町三丁目

又右の店

株藤治

三方俊一 紳業和の生質にて日と職業又出取宅扱

ゆねと労働ともの〜〜〜毎夜体更まで母の肩櫻未扱

さ〜〜母奴小と〜〜〜の〜〜〜せ〜〜〜又良弄俊

を〜〜打痛の疵癩お發〜ゆ〜付厚くお抱扱〜孝

善と〜〜〜ゆ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○同の

後草西併町

忘三の仲一居

雙結成

舎をのり手

亀 吉

手方倭初年の比より築和の生質又て何るも面親の
教と志とがひ又飛去後修業おれひい又付厚く習業
流し一は不^{あひ}お座終又病死しし一其^あ初^あ職業
寺人立流し兼い又付子石お座ひ寺身ハ下^あ利^あ流し
兵立いとら母たる倭血の及^あ若^あ後^あいと流^あく^あ心^あ死^あし
一柳^あの^あ石^あ合^あも^あも^あ接^あさ^あり^あき^あ一^あ園^あ病^あの^あ中^あよ^あく

手方倭初年の比より築和の生質又て何るも面親の
教と志とがひ又飛去後修業おれひい又付厚く習業
流し一は不^{あひ}お座終又病死しし一其^あ初^あ職業
寺人立流し兼い又付子石お座ひ寺身ハ下^あ利^あ流し
兵立いとら母たる倭血の及^あ若^あ後^あいと流^あく^あ心^あ死^あし
一柳^あの^あ石^あ合^あも^あも^あ接^あさ^あり^あき^あ一^あ園^あ病^あの^あ中^あよ^あく

○同の

本石町字目

赤と又と赤娘

ま 川

手方倭初年の初より築和の生質又て平日面親の中
付と不^{あひ}お座^あ接^あ年^あ以^あ前^あ妹^あ出^あ生^あ流^あし一^あ以^あ母^あ倭^あ産^あ後^あ

犯さうのいふに付方倣近きにて其の乳液一日々
 未明より起母の業を又おのりす本浪所妙見之病
 手平愈と形跡故一 柳看病あさうり 吾く業利自常
 故一 又又と来と後世も吾く善くうこそさうの久し
 付淨福理指南故一 才子よりゆゑい 文以謝物未獲
 らば又へお海一 又と賃仕りまつて一 善くうこそ
 命又故一 又新く孝善をうて一 小娘うらきとの又
 小奇持の倣に付あうびと一 吾目三指貴文とく
 せとせうと

○同日

元飯田町
 村桑店
 清吉業

た 員

手方倣史法者去卯年三月中より中風お發お才
 不叶い付厚世話故一 看病の名合より賃仕り故
 一 存を以漸くを日を學み 国新の井をぬいとる
 法者ぬいおも 買佃へお給日と休佛一 全快と行願
 一 右校長病の如柳と意貞心をうて一 小娘獲き去
 ころと奇持の倣に付唐員と一 吾目三指貴文とく
 せつ せつと

○同日

下谷茅町邸目
家持
八五斤

其方後七ヶ年以迄成年正月以来居所并隣町
その外病災うて困窮の者三拾六軒一軒又付
三貫文の都合百八貫文とどろ一先出し以
後
貯きとのよき寄持の儀又付奉る

同日七日以後以書付のうつ

今春 朝政以一新の以場合正月十五日

清元彼の以大徳を以 以仁恤の
聖意と以て新敷と除くの外大赦を 作出以延於國

東より如何の以事より有る以或子今絶不致以又付以
交改て以 作出正月十五日以前の罪人新敷を解大
送各屋を除外一切以新敷を以索迷又施行以政令
大徳智空 以沙汰以事

戊辰六月

○同日

鎮基
補
判事

有栖川大徳智空
鳥丸宰相

分課

監察

丹羽五位

同

清園五位

社寺

新田三位

民政兼會計管轄

江原新平

市政

西尾遠江守

同

土方大一郎

民政兼會計

北島千太郎

民政

横川源藏

補助

控判事

片桐省好

民政兼會計

山田市郎彦

同

國友有之

右通令殺改て

作出事

六月

六月
○同日

橋本中将
大原少将
西四辻太夫

德基補正 免外奉

六月

○同日

以来美石以下領地英社寺領之千石之最寄の府
縣より支配可致事
六月

存通給 大政友比 作出比百石を得お達し奉

六月

○同日

覽

孝明天皇

御忌日

十二月廿九日

今上白皇帝

御誕辰

九月廿二日

右毎月當日

除刑
オニヲキナシ

○

○六月十三日地後書付
自今毎月一六の日可為休日の方註
作出の条以順
出達中ハ以事

六月

法廷府

判事

市政裁判所

判事以中

市政日誌第七號

慶應四年戊辰六月四日

○六月四日於北裁判所中渡

山崎浅草町

月仍事

半 三 印

火之番人

与 七

抱番人

金 七

其方元依去月廿又日自身番屋へ法合強在に受也同
心成石捕以被中每宿重去を繩付し候被けお成以有
嚴重番いしし強在に受同人依聖暖七半時以雪極へ

在越能喰切了迹去とつて 証見然以連有合以輔を
以立向ひ以乃打合一同紙更以つども不_レ屈捕押以
奇特の倭又付為_レ懐美旨目指メ又つとらせ遣を

辰六月

○六月五日於北裁和所中後

嘉月所 東村 業種海世 徳 乞 飯

其方倭居所窮民のその町金所よおつて此救米_レ証下以
節_レ和以りの百六人へ毎_レ南代とつて武百四拾八文ツ_レ是を
又を平日出入つてつて以_レ糶_レ溜_レとつて余所内亦自主書及

抱人_レ是番人へ重_レ之分又を武方_レを分或い候又つて文之
メ又つ業種_レ頭お_レ海_レ是を右代_レ重_レとつて都_レ合又拾_レ四_レ支_レ余
是_レ以_レ恒_レ奇特の倭又付_レ懐_レ美_レ旨_レとつて根_レ之_レ投_レとつて遣_レを

辰六月

○六月六日於北裁和所中後

組と世話掛 名 五 共

去月十五日事件の節上野山内又有_レ別紙とあり_レ結
失_レ渡_レし以_レ付_レ自然_レ可_レ等又_レ控_レ等_レ訴_レ出_レ以_レ分_レを_レ以_レ渡
お_レ成_レ以_レ批_レ渡_レ交_レ旨_レ此_レ程_レ徳_レ川_レ重_レ旨_レお_レ預_レ以_レ付_レ等_レ一_レ拾_レ取

又々見当りたるに不持年月番の市改裁在所へ早々可
訴出事

○別紙品書

伏見院表等
一 御 軸 物 襖衣 寺 巻

後橋所院表等
一 御 掛 物 〱〱〱代の 寺 幅

光格天皇表等
一 御 掛 物 有森橋也 寺 幅

後陽成院表等
一 御 掛 物 一引物 寺 幅

後水尾院表等
一 御 短 冊 拾 枚

修学院
一 御 幸一座和歌山懐紙 拾 枚

光厳院表等
東福門院表等
文照院等
清揚院等
一 御 手 鑑 寺 帖

台徳院等
大猷院等
文昭院等
色 紙
大いこの
山甲
反山
〱〱〱〱

台徳院等
掛 物 〱〱〱〱
短冊 寺 幅

台徳院等
掛 物 〱〱〱〱
短冊 寺 幅

大猷院等
掛物

鶴銘

寺幅

同等
掛物

青折の

寺幅

嚴有院等
掛物

忍合

寺幅

同等
掛物

福祿寿

寺幅

常憲院等
掛物

周茂叔

寺幅

同等
掛物

鶴銘

寺幅

同等
掛物

忠信

寺幅

同等
掛物

龜鶴

寺幅

同等
掛物

敬漢

寺幅

同等
掛物

鶴銘

寺幅

同等
掛物

仁壽

寺幅

文昭院等
紙

何れ玉の
花さす

二枚

同等
經冊

伊勢の
高あつら
之吉野の

三枚

文昭院等
子證

短冊

寺帖

文昭院等
卷物

西湖八景之款

畫卷

同等
掛物

阿婆子

畫卷

畫幅

有德院等
掛物

席

畫幅

同等
掛物

松絳子

畫幅

同等
掛物

文珠

畫幅

淡明院等
卷物

百馬

畫軸

同等
卷物

墨蹟

畫軸

同等
掛物

左陣管旭兆
中海上華標
右衣川連牙

畫幅

同等
掛物

釋迦

畫幅

同等
掛物

左出陣
中表上后
右凱陣

畫幅

同等
掛物

源氏蓮生

畫幅

同等
掛物

左芦石
中意石
右芦石

畫幅

同等
掛物

左中
中右
右中

畫幅

孝恭院等
掛物

新

畫幅

常憲院等
掛物

大文字
忠信

寺幅

同
掛物

大文字
篤敬

寺幅

同
掛物

麟鳳

寺幅

同
掛物

芦子乃

寺幅

同
掛物

馬

寺幅

同
掛物

小文字
福喜

寺幅

又昭院等
手盤

新大寺仙

寺帖

同
掛物

色紙

寺幅

同
掛物

赤辰令月

寺幅

同
掛物

芦翡翠

寺幅

同
掛物

人麿の像

寺幅

同
墨蹟

万葉集
可樂
心張子勢

三枚

有徳院等
色紙

道のまじり

寺枚

常憲院等
画

天祚
天祚
天祚
天祚

四枚

大款院等
掛物

同等
掛物

文昭院等
掛物

同等
鑑

凌明院等
掛物

同等
掛物

同等
掛物

文恭院等
掛物

有源院等
屏風

同等
主

同等
主

凌明院等
屏風

同等
屏風

同等
屏風

耳度

寺和心度

短冊

瀟灑八系款

扇士

布袋

大布袋

日工波

祿席

熊坂

鏡魁

野馬

山水

切形張文

寺幅

寺幅

寺幅

寺帖

寺幅

寺幅

寺幅

寺幅

二枚折

寺御

寺御

寺双

寺双

寺双

同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物

蒲萄
 牡丹
 月波
 圓扇取の内片
 唐子遊
 河骨髀銘
 牡丹枝

畫幅
 畫幅
 畫幅
 畫幅
 畫幅
 畫幅
 畫幅

同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物
 同字 樹物

蒲萄
 富士
 八島檀之浦
 左折尾卷考
 中達廣
 右松馬
 左松髀
 中老老人
 右木髀
 富士
 梅
 裏日又竹

畫幅
 畫幅
 三幅
 三幅
 二幅
 畫幅
 畫幅

挂 挂物

日出 橘柚

寺 幅

挂 挂物

日出 波

二 幅

挂 挂物

冥 珠

寺 幅

挂 挂物

秀 老人

寺 幅

挂 挂物

波 马

寺 幅

挂 挂物

牡 母 踪

寺 幅

挂 挂物

月 波

寺 幅

挂 挂物

苏 松 旭

寺 幅

挂 挂物

玉 橘 核

寺 幅

挂 挂物

日 中 峰

寺 幅

挂 挂物

山 林 梁 间 渡

寺 幅

挂 挂物

尊 陶 柏 兼 酒

寺 幅

挂 挂物

瓶 花 子 菜 去

寺 幅

挂 挂物

束 常 菱 亦 像

寺 幅

有徳院等

堅掛物

鏡 植

寺 幅

後明院等

堅掛物

左畔之鏡
中喜老人
右松又鏡

寺 幅

同等

堅掛物

布袋唐子遊

寺 幅

同等

模掛物

墨繪野馬

寺 幅

同等

小屏風

花見の巻
納涼の果

寺 双

筆物

寺 包

香爐

目方六百六拾目
銀芦原

寺

銀野瓜呂

目方八百六拾目

寺

銀角

目方三百四拾目

寺

銀水指角法付

目方四百拾目

寺

銀釜

目方八百六十目
村梨子地葵紋敷
墨子漆

寺

銀水指

目方八百七拾目

寺

銀蓋星

目方四拾六目

寺

銀下

目方之拾三目

寺 本

七

一 銀 釜

目方六百枚

寺

一 銀 水 指

目方四百枚

寺

右之通

十

